令和5年度放課後等デイサービス関係職員研修

~子どもや保護者の

就学前までのこと~

児童発達支援センターこぐま園 中塚 雅子

今日の予定

- ① グループワーク "保護者支援とは?"(10分)
- ② 講義 "こぐま園の保護者支援"(40分)
- ③ グループワーク "取り組んでみようと思うこと"(10分)
- ④ 講義 "幼児期の療育で大切にしていること"(10分)

グループワーク(10分)

"保護者支援って?"

自分が思う"保護者支援"をグループで話してみよう!



療育につながるまでの

親御さんの思い



療育につながってから...

~ 保護者が子どもの発達を受容する過程 ~



子ども担当と保護者担当の連携

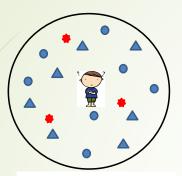
- * 子どもの活動からテーマを考える
- * 保護者グループのテーマから活動を組み立てる
- * 子どもと保護者で取り組む活動を設定する

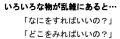
保護者グループでの主な取り組み

- * 療育の参観・参加
- * 日々の困りごと・子育ての相談
- * 子育てや発達に関する学習会
- * 支援ツールの作成
- * 保護者同士の情報交換
- * 子育てに必要なサービスの情報提供

保護者グループでよくある話題

- *家庭での生活・身辺自立
- *睡眠リズム・食事・偏食・トイレットトレーニング
- *着替え・はみがき・登園の用意・あそび・外出 ets
- *集団(幼稚園・保育園)での生活
- *登園・他児とのかかわり・集団での活動・あそび
- *行事(プール、運動会、遠足、生活発表会など)ets







必要な物だけ見えるように、整理しておくと… 「 🍦 をするんだ!」

【興味のあることをピンポイントで見つけるのは得意だけれど、全体を見るのは苦手です。】 【いろいろな事に興味関心があるため】 ⇒・今している遊びに集中できず次々と遊びが移

- ってしまいます。そのため、満足できずなか なか終われません。
 - まったりします。



※あそんでいるおもちゃ以外見えないよう整理する。



こぐま園

【ねらい】何をするのかわかり、安心して過ごす。

【言葉は目に見えないため、言葉だけで何をするのか伝えるとイメージができず、何をするの かわからなくとっても不安です。】

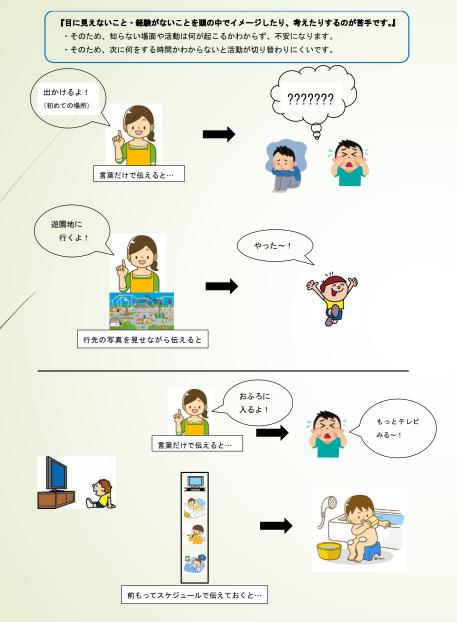


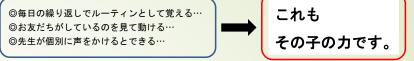
※不安だと心が『ザワザワ』して、間違えた行動をしてしまいます。 (わがままではありません。困っているけど、どう伝えればいいかわからないだけです。)

『スケジュール』

- いつ、どこで、何をするのかなど、時間と活動の流れを一人ひとりのわかりやすい方法で示します。 (写真カードや絵カード、具体物を見せながら伝えることで、何をするのかイメージできます。)
- ・スケジュールを使う前段階として、具体的な物を見せながら「次は〇〇するよ」と伝えながら次の活 動へ移動します。
- ※今何をするのか、具体物を見せながら伝えると「次はOOするんだ!」とわかって安心 して活動に向かえます。









「でも…」

- ・これでは、ルーティンとして身に付くまでが分からなくて困っています。
- ・これでは、お友だちや先生がいなかったり、変わってしまうと困ってしまいます。
- これでは、指示待ちになってしまいます。
- ※ 分からなくて困った経験を繰り返すことで自信がなくなり、自己否定的になって しまいます。

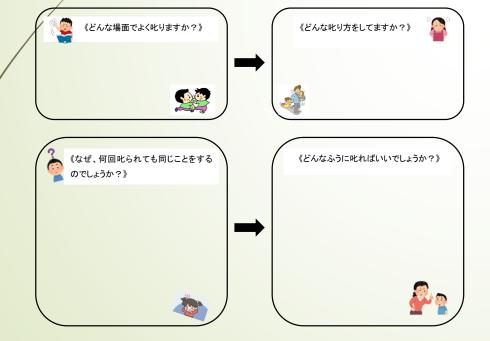
◎ルーティンで動けてるけど…

- ・ルーティンとして覚えるまで、<mark>視覚的な手がかり(手順書)</mark>がある方が正しい順番で、 早く覚えることができます。
- ◎お友だちを見て動けているけれど…
 - ・先生の言葉での全体指示では何をするかわからず、困って周りを見ています。 視覚的な手がかり(スケジュール等…) を見せながら全体指示をすると、 次に何をするのか分かりやすいです。
- ◎1対1で伝えると理解できるけれど…
 - ・先生に指示されないと動けない(始められない)指示待ちの子になります。 視覚的な手がかり(指示書・手順書)を見せながら全体指示をすると、 何をするのか分かり自発的に動けるようになります。
- ※ 自分で理解して動けることが、自信につながります⇒自己肯定感が高まります。

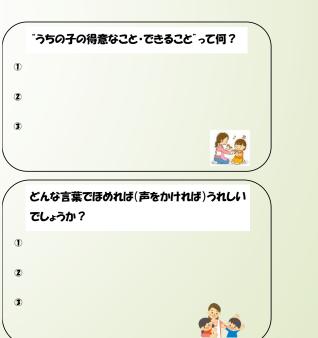


『わかってはいるんだけど…』という場面が、日々の生活の中ではたくさんあります。

今日は、『どんな場面でよく叱ってしまう?』『どんな叱り方をしてる?』『なぜ、叱られる事ばかりするの?』 『どんなふうに叱ればよかった?』を一緒に振り返ってみましょう。







保護者への支援を考えるために 必要なこと



保護者との相談(面談)記録

- 保護者からの相談の内容
 - 保護者から見た子どもの様子、家庭での困り、成長、 情報を得たいこと、他の保護者のコメント 等

- 保護者からの相談に対する助言
 - 助言内容、情報提供したこと、助言に対する反応・ コメント、取り組んだ結果の報告 等

保護者との相談(面談)記録

- 保護者の状況と変化
 - 保護者の思い、葛藤、子どもの捉え方、受け止め、 求めているもの、優先順位 等

- 保護者グループ以外での情報
 - 子どもの様子、子ども担当からの情報
 - *子ども担当職員だから把握できることも多い

グループワーク(10分)

"取り組んでみようと 思うこと!"

今後保護者支援で取り組んでみようと思った ことをグループで共有しましょう。



幼児期の療育

~大切にしたいこと~



早期療育の目的

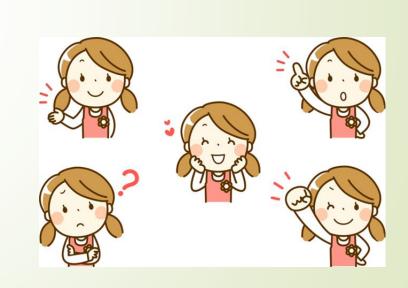
保護者がその子を育てていく 自信をもてるようにすること

- 発達支援
 - ⇒その子が<u>必要としている支援</u>を理解(評価)することから始まる
- ・ 発達検査などを用いたアセスメント⇒その子の現実を見つめる厳しい作業

療育とは…①

- 毎日、大きな集団(幼稚園・保育園)の中で頑張っている子ども達にとって、
 - 安心して落ち着ける
 - 自分でわかり自信がつく
 - 楽しい場所 (居場所)

が療育です。



『安心して落ち着ける』場所

- 1人ひとりの理解(学習スタイル)に合わせた環境
- 自分の思いが伝わり応えてもらえる
- 求められることは『できること』『興味のあること』
- 『私は私でOK!』を受け入れてもらえる



『自分でわかり自信が付く』場所

- その子の理解に合わせた指示や提示
- 「○○しなさい」「こうするの」とひとつひとつ言語指示を 出さなくても、自分で理解してできる伝え方をする
- 提供する自立課題は100%確実にできること(間違えても指摘しない)
- 教える課題(1 to 1)は、興味やスキルがあり、『やりかた』を2~3回伝えれば(練習すれば)できること

『楽しい』場所

- 好きな活動・あそびの時間を保障する
- 無理強いしない(その子のタイミングに合わせる・苦手なこと、難しい課題は提供しない)
- ダメ出ししない(否定するのではなく肯定的に伝える)
- 拒否を受け止め(「嫌だったんだね」等) どうすれば(言えば) 正しかったかを伝える

療育とは…2

- 塾やお稽古のように、何かを教えたり訓練する場ではありません
- 「うちの子はどんな子?」を見つける場です
- その子自身を知り、親御さんや幼稚園・保育園の先生と共有 し、理解者が増えることで、居場所も広がります
- あくまでも、メインの居場所は幼稚園・保育園です。そこで 上手く過ごせるためのお手伝いをする場です。
- 理解者が増え、子ども達が、その子らしくキラキラと輝ける 場所が増えるお手伝いをする場所でありたいと思います。

最後に...

- 支援者の『○○させたい』『○○ができるように…』を押し付けてはいませんか?
- できるようになると、どんどんステップアップさせようとしていませんか?
- 自分の思いを押し付けていないか、支援の中心に利用児さん や親御さんがいるのか…常に自分を振り返りながら支援を行 いたいですね

ご清聴ありがとうございました。



児童発達支援センターこぐま園 中塚 雅子